医療従事者のための医薬品安全性監視（PV）ワークショップ

(医療従事者向け PV ウェビナー、2020年8月26日）

医薬品安全性監視（PV）活動において、医療従事者は、流通する医薬品の安全性を支援・監視・評価するPVシステムの中で重要な役割を担っています。これに基づき、Badan POMとJICAプロジェクトは、2020年8月26日に医療従事者向けのウェビナーをジャカルタで開催しました。

この活動の目的は、医療従事者が医薬品安全性監視（PV）活動、特に医薬品の副作用や望ましくない事象を報告することについて理解と能力を高め、患者のより高い安全性または安全性に関する目標を達成するために医療従事者の能力を強化することにあります。

このワークショップは、関連部門からの意見を取り入れるだけでなく、医薬品安全性監視システムを強化し、インドネシアにおける副作用の報告数を増やすための提言をまとめる良い機会となりました。過去3年間で副作用報告の件数は増加していますが、アジアの他の国のデータと比較して、また地域の規模や人口から見て、このデータは依然としてまだ少ないものであるといえます。

今回のワークショップでは、Badan POM の薬物・麻薬・向精神薬・前駆体・中毒性物質管理担当副代表の Rita Endang 氏が、国の医薬品安全性監視（PV）センターとして Badan POM が医療従事者に対して PV 活動、特に副作用の報告に積極的に貢献することを引き続き奨励していることに言及しました。同じく Badan POM の Tri Asti Isnariani 氏はインドネシアの PV システムについて、インドネシア大学の Nafrialdi 氏は PV の基本的体制について、ガジャマダ大学の Jarir At Thobari 氏は有害事象の報告と因果関係の評価について発表しました。また、JICA専門家（チーフアドバイザー）の佐野喜彦氏もオンラインで参加し、日本のパンデミック状況下でのPV体制や安全性に関する国民との コミュニケーションの実施について説明しました。

Badan POM とJICAは共同で、医療従事者向けの PV 資材を作成しました。このワークショップは、このモジュールを基として医療従事者の医薬品安全性監視への理解と認識を高めることを目的としています。プレゼンテーションやパネルディスカッションを通じて参加者が本分野の知識や理解を深めることができれば、JICAプロジェクトとして有り難いと考えております。

©JICA Project to enhance drug and food safety control systems in Indonesia